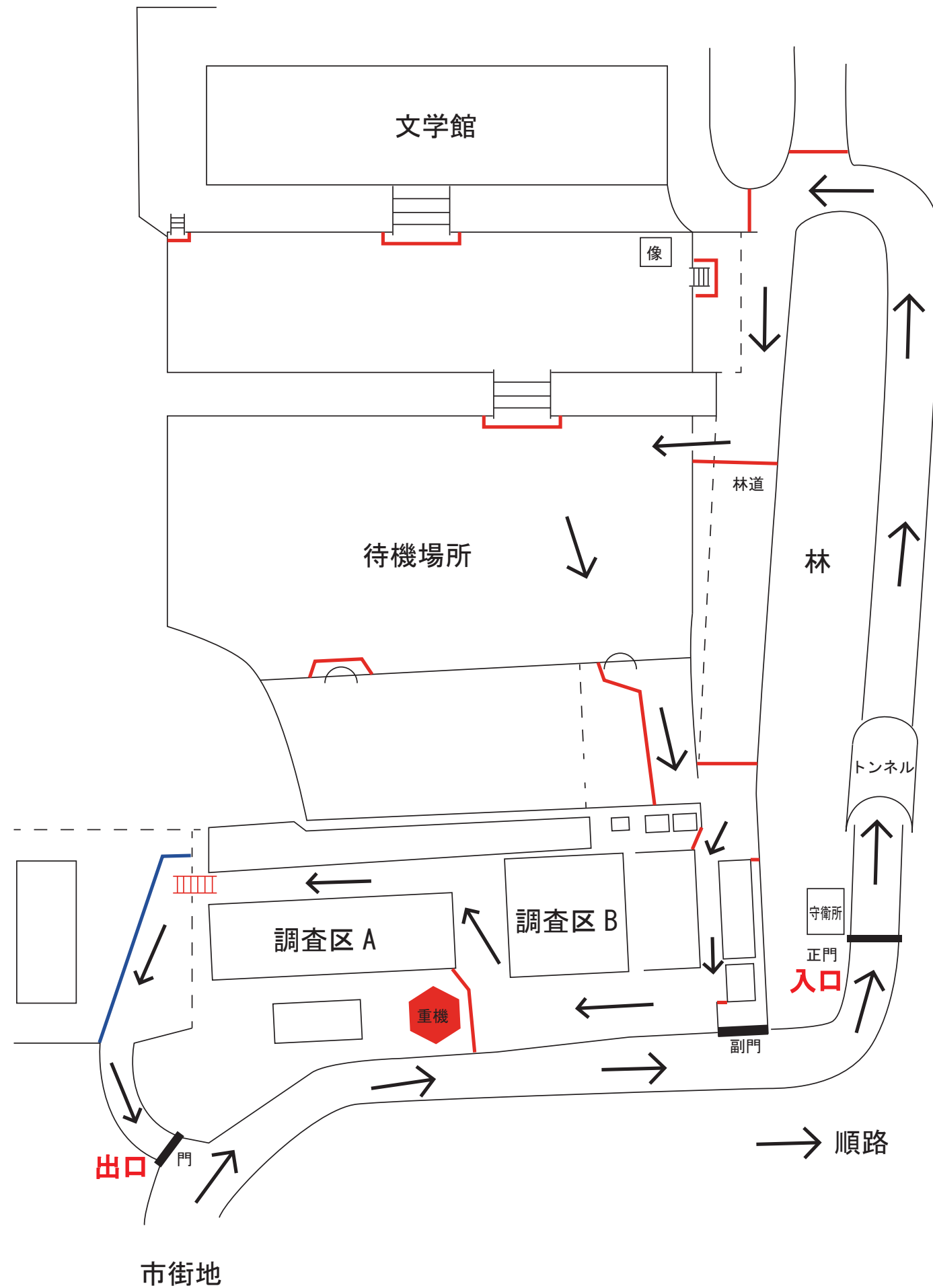


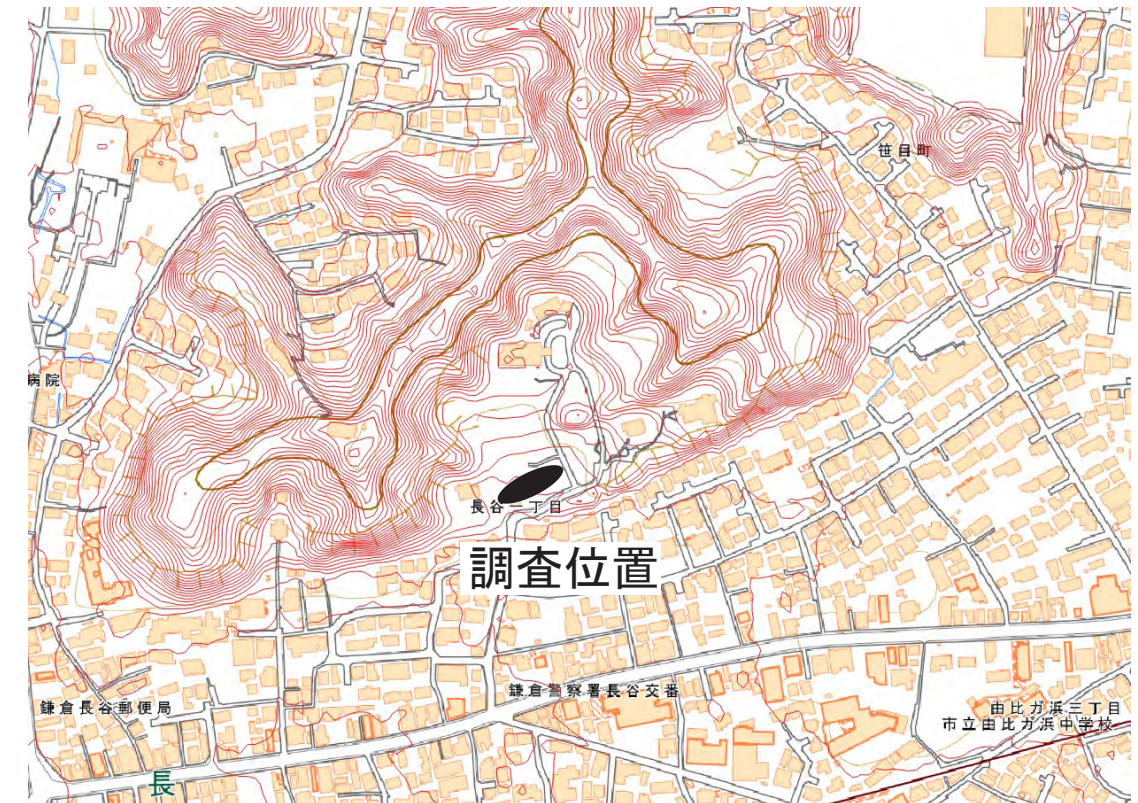
案内図



長谷小路周辺遺跡発掘調査現地説明会

調査の概要

- ・遺跡名 長谷小路周辺遺跡
- ・所在地 鎌倉市長谷一丁目 212 番 17、18、215 番（鎌倉文学館敷地内）
- ・調査期間 令和 7 年（2025 年）9 月 24 日～令和 7 年（2025 年）年 12 月 26 日（予定）
- ・調査原因 （仮称）鎌倉文学館付属棟建設
- ・事業者 鎌倉市共生共創部文化課
- ・調査面積 約 150 m²（工事などにより埋蔵文化財に影響がある範囲）
- ・調査組織 株式会社パスコ
- ・発見された遺構（令和 7 年（2025 年）11 月 16 日現在）
中世 柵跡、溝跡、不明遺構、整地層など
- ・出土した遺物（令和 7 年（2025 年）11 月 16 日現在）
中世 かわらけ、貿易陶磁器、国産陶器、瓦、硯、銭貨など



鎌倉文学館の周辺地形（等高線の間隔は 2m）
※国土地理院数値標高モデル 5m メッシュ及び地理院地図を基に作成

長谷小路周辺遺跡発掘調査現地説明会資料

令和 7 年（2025 年）年 11 月 16 日（日）

主催：株式会社パスコ

協力：鎌倉市教育委員会

※なお、今回の内容は令和 7 年（2025 年）年 11 月 16 日現在のものであり、
発掘調査報告書等では内容が変更となる可能性があります。

調査の成果

B区では中世（鎌倉時代）の柵跡と考えられるピット（小穴）列や、砕いた泥岩（いわゆる土丹）を用いた整地層等が発見されました。柵跡は大小の穴が2個で1セットのように並び、大きな穴は直径約40～70cm、小さな穴は方形で1辺が20～40cm程です。また柱の間隔は約1mでほぼ等間隔に並びます。このことから控え柱を持つ強固な柵であったと考えられます。

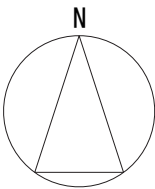
A区では溝跡や土坑、整地層等が発見されました。また、A区の中央付近では、切出した泥岩を列状に並べ、内側の面を揃えて配置した溝跡が確認されました。この溝跡を境に西側は泥岩を細かく砕いて版築を行った整地層、東側はB区と同様に泥岩を粗く砕いて整地しているようです。どちらの調査区でも整地はさらに下層まで続くようですが、今回は調査を行いません。

出土遺物はかわらけ・国産陶器（常滑・瀬戸）などが中心となりますが、青磁や白磁などの貿易陶磁器や瓦、硯などの遺物も出土しています。

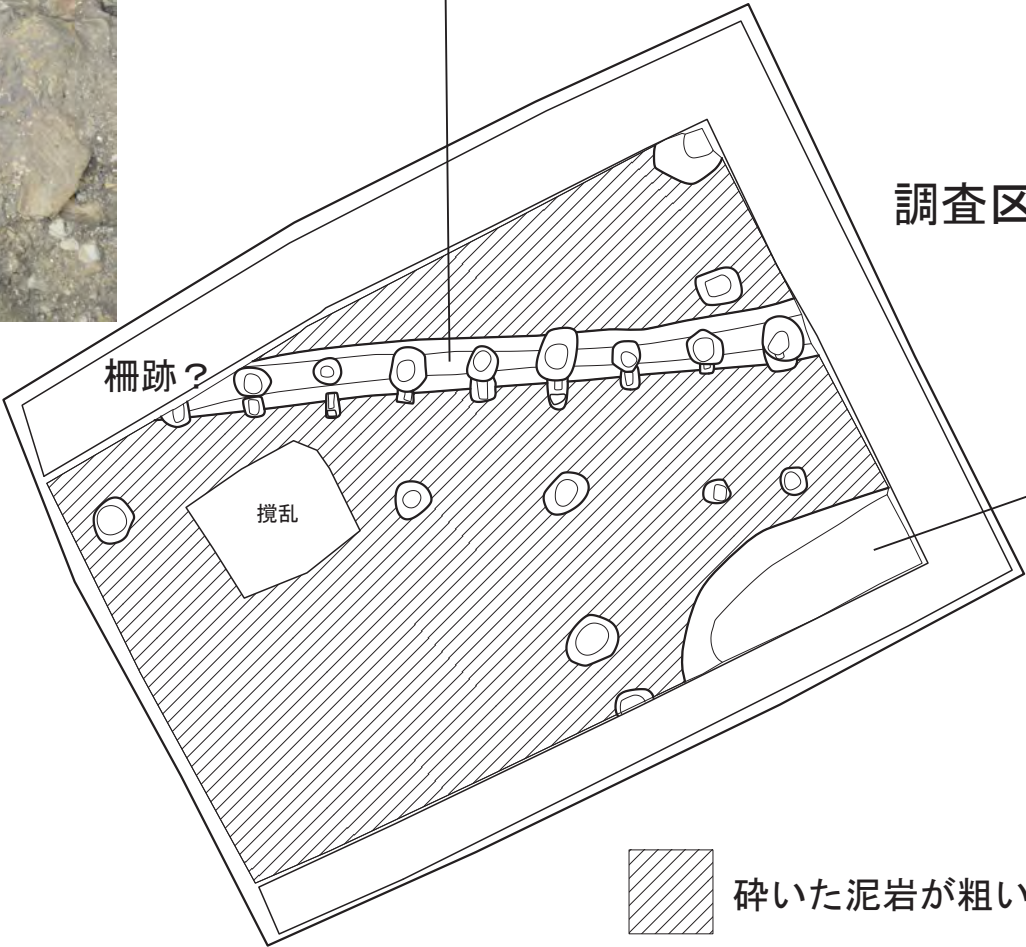
調査地点の付近には長楽寺というお寺があったと指摘されていますが、現在のところ調査成果とお寺の関連性は不明です。



柵跡？オルソ画像（正射投影図）



調査区B区



不明遺構



柵列の小穴（拡大写真）
大きい穴と小さな穴が
セットのように並ぶ



泥岩で石積みされた溝跡

調査区A区

